早稲田大学臨床心理学研究　第 18 巻　第 1 号　p.51～57

原 著 論 文
Original Article

他者評価懸念の機能的側面が社交不安の程度に及ぼす影響

森石 千尋　早稲田大学　山下　歩[1]　総合心理教育研究所　前田 駿太　東北大学
荻島 大凱　早稲田大学　嶋田 洋徳　早稲田大学

Effect of functional aspects of fear of evaluations on social anxiety symptoms

Chihiro MORIISHI（*Waseda University*）, **Ayumi YAMASHITA**[1]（*SOGO Institute of Psychology & Education*）
Shunta MAEDA（*Tohoku University*）, **Hiroyoshi OGISHIMA,**
and Hironori SHIMADA（*Waseda University*）

Previous studies present firm evidence that individuals with social anxiety experience fear of negative evaluation (FNE), which contributes to the maintenance of social anxiety symptoms. In addition, fear of positive evaluation (FPE) may also contribute to the maintenance of social anxiety symptoms, but little is known about how these two types of fear of evaluations are associated with each other and the effect of this association on social anxiety symptoms. The present study examined the effects that differential expressions of fear of evaluations have on social anxiety symptoms in university students. Three hundred and fifty-five students (186 female, 163 male, 6 unknown; mean age = 20.34 [2.57]) completed questionnaires measuring levels of FNE, FPE, anxiety, and depression. According to a non-hierarchical clustering method, we identified groups of individuals who were both on FNE and FPE. High FNE and FPE individuals showed significantly higher levels of anxiety and depression than individuals in the low FNE and FPE group. These findings suggest that both FNE and FPE are associated with severe social anxiety symptoms.

Key words: fear of negative evaluation, fear of positive evaluation, social anxiety

Waseda Journal of Clinical Psychology
2018, Vol. 18, No. 1, pp. 51 – 57

社交不安症は，「他者の注視を浴びる可能性のある 1 つ以上の社交場面に対する，著しい恐怖または不安」を中核的な特徴とする精神疾患であるとされている（DSM-5; American Psychiatric Association, 2013 髙橋・大野監訳 2014）。社交不安症の生涯有病率は米国で 12.1% であり，他の精神疾患と比較しても高い数値を示している（Kessler et al., 2005）。本邦においては，生涯有病率は 1.4% と低い水準を示しているものの（川上，2007），今後，日本の社会構造や社会様式の欧米化に伴い，対人交流や対人パフォーマンスを求められる機会が増えることが想定されることから，社交不安症はより表面化することが推測されている（小山，2017）。そのため，本邦において，社交不安に対する心理臨床的介入の効果を検討していくことは重要であると考えられる。

これまでの研究において，社交不安症に中核的な認知的特徴として，古くから「Fear of Negative Evaluation（以下，FNE とする）」があげられている（Watson & Friend, 1969）。認知モデルの枠組みにおいて，FNE は社交場面における他者からの否定的な評価に対する恐れに特徴づけられることから，症状の中核として，社交不安の維持に寄与することが示されてきた（Clark & Wells, 1995；Rapee & Heimberg, 1997）。また，先行研究において，FNE は社交不安の維持に寄与する回避行動を誘発することが示されていることから（e.g., Horley, Williams, Gonsalvez, & Gordon, 2004），社交不安症の治療における中核的な要因として，FNE の低減は重要視されてきた。

このように，社交不安症においては FNE が症状の維持における中核的な認知的特徴として重要視されてきた一方で，社交場面における他者からの肯定的な評価に対する恐れである「Fear of Positive Evaluation（以下，FPE とする）」も，社交不安の維持要因となる可能性が指摘されている（Weeks, Heimberg, & Rodebaugh, 2008）。この FPE の概念は進化心理学の観点から説明されている（Gilbert, 2001）。この理論によ

1　東京セリエセンター（Tokyo Selye Center）

ると，社交不安を呈する者は肯定的なフィードバックを受けることによって，他者からの報復を受けることを恐れていることが想定されており，Gilbertはこのことを「“fear of doing well（うまくいくことへの恐怖）“」と定義している。また，肯定的なフィードバックにより他者からの評価基準が高まったと認識する一方で，その基準を満たすことができず，将来的に他者からの否定的な評価につながることを恐れる傾向があることも指摘されている（Wallace & Alden, 1995；Wallace & Alden, 1997）。そのため，治療過程における成功体験によって上記のような不安が喚起されることによって，治療効果が十分に得られない可能性が指摘されている（Weeks et al., 2008）。そのため，社交不安の維持要因として，FNEのみならずFPEを含めた検討は重要であると考えられる。

先行研究において，FNEとFPEは互いに異なる構成概念を有しており，それぞれ独立して社交不安の維持に寄与する可能性が指摘されてきた（e.g., Weeks et al., 2008）ものの，FNEとFPE双方を包括的に捉えたモデルも提唱されている。例えば，Weeks & Howell（2012）は先行研究において，社交不安を呈する者はネガティブ，およびポジティブな感情価に基づく評価に対する恐れを有するとする，「The Bivalent Fear of Evaluation（BFOE）model（以下, BFOEモデルとする）」を提唱している。このモデルにおいては，FNEは「社会的に望ましくないとみなされることで集団から排斥されることの回避」，FPEは「好ましい印象を与えることで集団において敵意を向けられることの回避」を動機づけることから，社交不安症状に対してもそれぞれ異なる影響性を有していることが想定されている（Weeks & Howell, 2012）。しかしながら，FNEとFPEは，機能という枠組みから理解すると，結果的にいずれも他者からの評価を伴う場面の回避という同様の機能を有する可能性も考えられる。したがって，「否定的な評価」への恐れと「肯定的な評価」への恐れという認知の内容面の差異が適応状態に決定的な差異をもたらすか否かについては議論の余地があると考えられる。実際に，Teale Sapach, Carleton, Mulvogue, Weeks, & Heimberg（2015）は，「感情価に関わらない他者からの評価に対する恐れ（以下，general fear of evaluationとする）」が社交不安の重篤度を反映する可能性を指摘しており，FNE，FPEを問わず他者からの評価に対する恐れが社交不安症状を予測することを想定している。このように，BFOEモデルのように評価に対する認知の内容面の差異に着目するのみならず，general fear of evaluationのように，評価への恐れそのものを有することが適応状態に影響を及ぼすかどうか，という観点で検討することも重要であると考えられる。

このような動向の中, Lipton, Weeks, & Reyes（2016）はBFOEモデルに沿って，FNEとFPEの個人内での併存の在り方が社交不安症状に与える影響を検討している。この研究ではFNEとFPEを標準得点に換算後，上位25%を基準として高低に振り分け，それぞれの組み合わせで4群を設定している。しかしながら，群の内訳をふまえると（e.g., FNE低FPE低群；58.4%；FNE高FPE低群；14.4%；FNE低FPE高群；14.9%；FNE高FPE高群；12.3%），全体に占める人数比が少ない群が複数生じている。このことから，FNEおよびFPEの高群と低群の組み合わせによる4群設定は，併存の在り方を示すにあたって適切ではないことが考えられる。そのため，あらかじめ群分けの基準を設定しないことで，併存の在り方をより適切に検討することが可能であると考えられる。具体的な解決策として，データからボトムアップ形式で分類が可能である，クラスター分析の使用が有効であると考えられる。

そこで本研究では，FNEおよびFPEの併存の在り方が社交不安の程度に与える影響を，クラスター分析を用いて探索的に検討することを目的とした。

方　法

調査対象者

私立大学に所属する大学生および大学院生355名（男性163名，女性186名，不明6名，平均年齢20.3 ± 2.6）を調査対象者とした。

測度

Short Fear of Negative Evaluation Scale（SFNE；**笹川他，2004**）　他者からの否定的な評価に対する恐れを, 12項目5件法で測定する尺度であった（Range：12-60）。SFNEは得点が高いことをもって，他者からの否定的な評価に対する恐れが強いと解釈した。本研究におけるSFNEのα係数は.92と十分に高い値を示した。

Fear of Positive Evaluation Scale　日本語版（FPES；**前田・関口・坂野，2013**）　他者からの肯定的な評価に対する恐れを，10項目10件法で測定する尺度であった（Range：0-90）。FPESは得点が高いことをもって，他者からの肯定的な評価に対する恐れが強いと解釈した。本研究におけるFPESのα係数は.78と高い値を示した。

Liebowitz Social Anxiety Scale　日本語版（LSAS-J；**朝倉他，2002**）　社交場面における不安および回避の程度を，48 項目4件法で測定する尺度であった（Range：0-144）。LSAS-Jは社交不安の程度を測定するために使用し，得点が高いことをもって，社交不安症状が強いと解釈した。本研究におけるLSAS-Jのα係数は.95と十分に高い値を示した。

Self-rating Depression Scale 日本語版（SDS；福田・小林，1973） 抑うつ症状の程度を，20 項目 4 件法で測定する尺度であった（Range：20–80）。先行研究において，社交不安症を示す者はうつ病を併存しやすいことが示されている（e.g., Kessler et al., 2005）。そのため，抑うつ症状が併存することで，社交不安の程度が重篤化することが考えられることから，社交不安症状の重篤度を予測するために補助的に使用した。SDS は得点が高いことをもって，抑うつ症状が強いと解釈した。本研究における α 係数は .80 と高い値を示した。

手続き

大学および大学院の講義担当の教員より許可を得た上で，講義終了後に，受講者を対象に 4 種類すべての尺度と，調査における注意事項および連絡事項，回答者の性別および年齢の記述を求めるフェイスシートを記載した質問紙を配布した。受講者には，（a）質問紙への回答内容は統計的に処理するため個人の特定が不可能なこと，（b）調査に参加しないことで講義の成績に全く影響がないこと，（c）いかなる不利益も被らないこと，をフェイスシートおよび口頭で伝えた上で，受講者本人の自由意志によって質問紙への回答を得た。なお，本研究は著者所属機関における「人を対象とする研究に関する倫理審査委員会」の承認を受けた上で実施した（申請番号：2014–028）。

データ分析

本研究の分析には HAD16.03（清水，2016）を使用した。なお，SFNE，FPES の素点はそれぞれ標準得点に変換して分析を行った。また，クラスターの分類に関して，まず BFOE モデルに沿う場合，FNE と FPE は社交不安症状に対して，異なる影響力を有していることが想定されている。具体的には，「否定的な評価」に対する恐れと「肯定的な評価」に対する恐れは認知の内容面で明確に区別されていることから，それぞれの程度の強さの併存具合によって，社交不安症状に与える影響が異なることが考えられる。そのため，FNE の程度が高く FPE の程度が低い場合と，FNE が低く FPE が高い場合では，状態像が質的に異なることが考えられた。したがって，「両高型」，「FNE 優位型」，「FPE 優位型」，「両低型」からなる 4 クラスターモデルを想定した。一方，general fear of evaluation に沿う場合，FNE と FPE は社交不安症状に対して，同じ影響力を有していることが想定されている。具体的には，否定的，肯定的評価にかかわらず，評価を受けることそのものへの恐れによって，社交不安症状に影響を与えることが考えられる。そのため，「否定的な評価」に対する恐れと「肯定的な評価」に対する恐れは認知の内容面で区別しないことから，FNE の程度が高く FPE の程度が低い場合と，FNE の程度が低く FPE の程度が高い場合では，状態像が質的に同じであることが考えられた。よって，「両低型」および「両高型」からなる 2 クラスターモデルを想定した。分析においては，4 クラスターおよび 2 クラスターをそれぞれ指定したうえで，適合度指標である赤池情報量基準（AIC），およびベイズ情報量基準（BIC）を用いてそれぞれのモデルの適切性を比較検討した。

結　果

サンプルの特徴

各変数の記述統計量および順位相関係数を Table 1 に示した。

他者評価懸念の機能的側面による対象者の分類

分析対象者を他者評価懸念の機能的側面によって分類するため，クラスター分析を行うにあたり，FNE および FPE の相関係数を算出した。その結果，有意な正の相関が確認された（r = .25，p < .01）。先行研究で確認された中程度の相関ではなかったものの，両変数間の相関が確認されたことから，相関関係を考慮した，マハラノビス距離に基づいた改良型 k-means 法による非階層的クラスター分析（豊田・池原，2011）を行った。BFOE モデルに沿った 4 クラスターモデル，および general fear of evaluation に沿った 2 クラスターモデルにおける AIC 値と BIC 値を検討した結果，2 クラスターモデルの方が AIC 値および BIC 値が低く，モデルとしての適合度が高いことが示された（4 クラスターモデル；AIC = 2013.8，BIC = 2087.4；2 クラスターモデル；AIC = 1997.5, BIC = 2032.3）。そして，各クラスターに分類された人数の割合およびクラスターの内容を検討した。FNE と FPE に異なる影響性を想定する，4 クラスターモデルにおける各クラスターの FNE および FPE 得点は Figure 1 に示した。人数の割合および内容を検討した結果，まず想定していた「FPE 優位型」，つまり否定的な評価に対する懸念が低く，肯定的な評価に対する懸念が高い状態像に相当するとされるクラスター（Figure 1；CL3；16.6%）は，FNE の標準得点が「両低型」の FNE 得点と比較して有意に高く（t = 4.22，p < .01），FPE の標準得点が「両高型」の FPE 得点と比較して有意に低い値であった（t = 4.96，p < .01）。次に，「FNE 優位型」，つまり否定的な評価に対する懸念が高く，肯定的な評価に対する懸念が低い状態像に相当するとされるクラスター（Figure 1；CL4；42.0%）は，FNE の標準得点が「両高型」の FNE 得点と比較して有意に低く（t = 5.60，p < .01），FPE の標準得点が「両低型」の FPE 得点と比較して有意に高い値であった（t = 6.33，p < .01）。そのため，「FPE 優位型」，「FNE 優位型」と解釈がで

Table 1
各変数の記述統計量および順位相関係数

	Mean（*SD*）	1	2	3
1 .LSAS-J	51.05 （23.09）	-	-	-
2 .SDS	43.20 （7.80）	.34**	-	-
3 .SFNE	40.50 （9.69）	.31**	.32**	-
4 .FPES	26.96 （11.36）	.46**	.34**	.24**

注）LSAS-J：Liebowitz Social Anxiety Scale 日本語版；SDS：Self-rating Depression Scale 日本語版；SFNE：Short Fear of Negative Evaluation Scale 日本語版；FPES：Fear of Positive Evaluation Scale 日本語版。カッコ内は標準偏差。
**$p < .01$.

きないことから，BFOE モデルで想定された 4 クラスターモデルには当てはまらないと判断した。次に，FNE と FPE に異なる影響性を想定しない，2 クラスターモデルにおける各クラスターの FNE および FPE 得点は Figure 2 に示した。4 クラスターモデルと同様，人数の割合および内容を検討した結果，想定していた「両低型」，すなわち他者からの評価そのものを恐れる程度が低い状態像に相当するとされるクラスター（Figure 2；CL1）の FNE および FPE の標準得点は，全体の FNE および FPE の平均標準得点と比較して，有意に低い値であった（FNE：$t = 17.09$，$p < .01$；FPE；$t = 4.39$，$p < .01$）。同様に，「両高型」，すなわち他者からの評価そのものを恐れる程度が高い状態像に相当するとされるクラスター（Figure 2；CL2）の FNE および FPE 得点も，全体の平均標準得点と比較して有意に高い値であった（FNE：$t = 19.60$，$p < .01$；FPE；$t = 3.76$，$p < .01$）。そのため，「両高型」および「両低型」と解釈可能であることから，general fear of evaluation で想定された 2 クラスターモデルに当てはまると判断した。各クラスターは，それぞれ，(a)「両低型」(40.6%)，(b)「両高型」(59.4%) と解釈された。各クラスターの記述統計量は Table 2 に示した。この解釈の妥当性について検討するために，SFNE および FPES の標準得点を従属変数，各クラスターを独立変数とした t 検定を行った。その結果，いずれの従属変数においても，「両高型」(SFNE 得点：0.67 点；FPES 得点：0.24 点）の方が「両低型」(SFNE 得点：- 0.98 点；FPES 得点：- 0.36 点）よりも有意に高い結果となった（SFNE：$t = 26.24$；FPES：$t =$

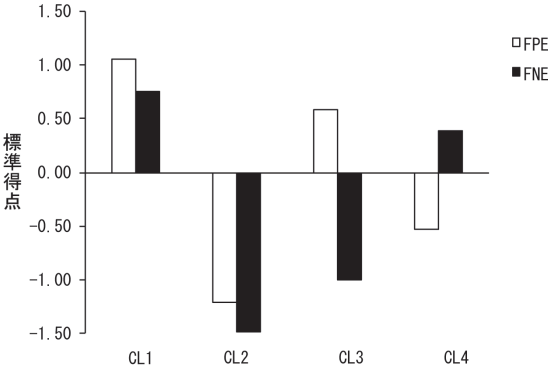

Figure 1　4 クラスターモデルにおける FNE および FPE 得点による内訳。

Table 2
クラスター別の記述統計量

	CL1	CL2	t/χ^2	p
年齢	20.3 (1.9)	20.4 (2.9)	0.50	.62
LSAS-J	42.83 (22.57)	56.66 (21.81)	5.79	< .01**
SDS	40.98 (7.85)	44.71 (7.43)	4.54	< .01**
SFNE	30.96 (6.70)	47.01 (4.83)	26.24	< .01**
FPES	22.90 (11.12)	29.74 (10.72)	5.81	< .01**

注）LSAS-J：Liebowitz Social Anxiety Scale 日本語版；SDS：Self-rating Depression Scale 日本語版；SFNE：Short Fear of Negative Evaluation Scale 日本語版；FPES：Fear of Positive Evaluation Scale 日本語版。カッコ内は標準偏差。
**p < .01.

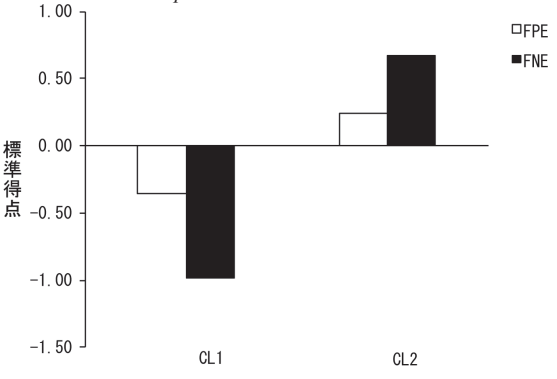

Figure 2　2 クラスターモデルにおける FNE および FPE 得点による内訳。

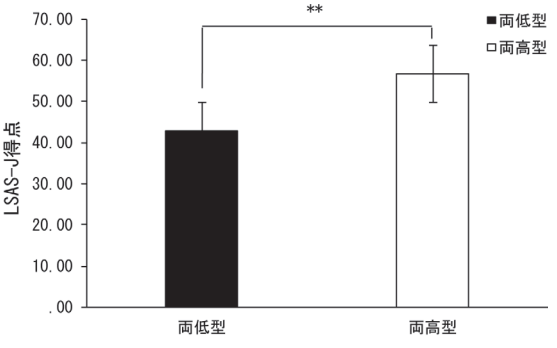

Figure 3　クラスター別の LSAS-J 得点の平均値（エラーバーは標準誤差）。
**p < .01.

5.81；いずれも p < .01）。したがって，2 クラスターモデルによる解釈は妥当であったと判断した。

クラスター間の社交不安の程度の差異

クラスター間で社交不安の程度に差が見られるかどうかを検討するために，LSAS-J 得点を従属変数，各クラスターを独立変数とした t 検定を行った。その結果，「両高型」の方が「両低型」よりも有意に高い結果となった（t = 5.79，p < .01；Figure 3）。

クラスター間の抑うつの程度の差異

クラスター間で抑うつの程度に差が見られるかどうかを検討するために，SDS 得点を従属変数，各クラ

スターを独立変数とした t 検定を行った。その結果，「両高型」の方が「両低型」よりも有意に高い結果となった（$t = 4.54$，$p < .01$；Figure 4）。

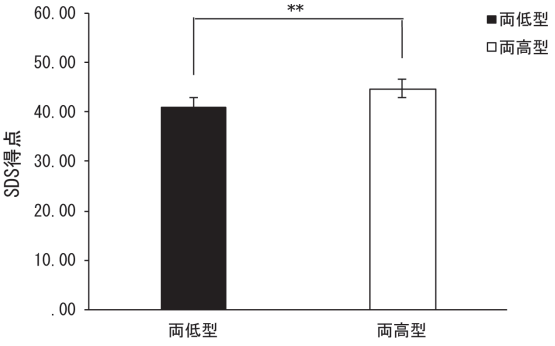

Figure 4　クラスター別のSDS得点の平均値（エラーバーは標準誤差）。
$^{**}p < .01$.

考　　察

本研究の目的は，FNEおよびFPEの併存の在り方が社交不安の程度に与える影響を，クラスター分析を用いて探索的に検討することであった。データ分析の結果，「両高型」および「両低型」を有する，general fear of evaluationに沿った2クラスターモデルが適切であることが示唆された。また，社交不安の程度として測定したLSAS-J得点は，「両高型」の方が「両低型」よりも有意に高いことが確認された。加えて，社交不安の重篤度を予測する上で補助的に測定したSDS得点においても，「両高型」の方が「両低型」よりも有意に高いことが確認された。

本研究の結果をふまえると，FNEのみならずFPEを有している「両高型」が社交不安の重篤度を予測することが示唆された。このことは，Teale Sapach et al.（2015）によって指摘されていたgeneral fear of evaluationこそが，社交不安の重篤度を反映するという知見を裏付けるものであると考えられる。

本研究の知見からは，否定的，肯定的といった感情価を問わない評価懸念そのものの低減を検討することの有効性が示唆できると考えられる。従来のCBTの治療プログラムにおいてはFNEの低減が重要視されており，CBTの中核的な技法であるエクスポージャーは，否定的な評価に基づく社交場面を設定して行うことで，FNEを低減させることが示されている（Kampmann et al.，2016）。しかしながら，本研究で得られた知見をふまえると，社交不安を有する者はgeneral fear of evaluationを有している，つまり，感情価を問わない他者からの評価そのものに対する恐れを有することで社交不安症状が重篤化することが示唆される。そのため，「否定的な評価」といった特定の認知の内容面に即した場面設定による介入のみでは，社交不安症状が改善されにくいことが想定される。そのため，今後は例えば肯定的な評価に基づく社交場面も設定して治療を行うなど（e.g., Weeks et al., 2008），否定的，肯定的な場面を併せた評価懸念そのものに対する介入を検討していくことが有効であると考えられる。

なお，本研究の限界として，まずFNEおよびFPEによって誘発されることが想定される，非機能的な行動の程度を測定できていないことがあげられる。先行研究において，FNEおよびFPEは回避行動を誘発する認知であることが指摘されており（Horley et al., 2004；Weeks, Rodebaugh, Heimberg, Norton, & Jakatdar 2009），このことが社交不安の維持に寄与すると考えられる。そのため，実際にFNEおよびFPEと社交不安の程度との関係を検討する上では，こうした回避行動への影響についても検討する必要があると考えられる。また，本研究はアナログ研究における知見であることから，臨床群への一般化可能性は検討の余地があると考えられる。社交不安症状に関しては非臨床群と臨床群の間には連続性が仮定されていることから（e.g., Kollman, Brown, Liverant, & Hofmann, 2006），本研究で得られた知見は実際の社交不安症患者においても適用可能であると考えられる。しかしながら，実際の臨床群においても本研究の知見が再現されることで，より強固な裏づけを得ることができると考えられる。そのため，今後は社交不安症の臨床群でも検討を行い，同様の結果が再現されるかどうかを検討することは重要であると考えられる。

以上のような限界点は身受けられるものの，本研究の知見は社交不安の程度の予測において，FNEのみならずFPEを併存している，すなわち「感情価に関わらない他者からの評価に対する恐れ（“general fear of evaluation”）」を考慮することの重要性を裏付けた点で有用であると考えられる。今後は，回避行動など実際の適応状態も考慮に入れるなど，社交場面を再現した上でより実証的に検討を行っていく必要があると考えられる。

謝　　辞

本研究の実施にあたりご協力いただいた，猪俣菜津美さんにここに記して心より感謝申し上げます。

引 用 文 献

American Psychiatric Association.（2013）. *Diagnostic and statistical manual of mental disorders*（5th ed.）. Washington, DC: American Psychiatric Association.（米国精神医学会 髙橋 三郎・大野 裕（監訳）（2014）. DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル 医学書院

朝倉 聡・井上 誠士郎・佐々木 史・佐々木 幸哉・北

川 信樹・井上 猛…小山 司（2002）．Liebowitz Social Anxiety Scale（LSAS）日本語版の信頼性および妥当性の検討　精神医学，*44*，1077−1084.

Clark, D. M., & Wells, A.（1995）. A cognitive model of social phobia. In R. G. Heimberg, M. R. Liebowitz, D. A. Hope, & F. R. Schneier（Eds.）, *Social phobia: Diagnosis, assessment, and treatment*（pp. 69−93）. New York: The Guilford Press.

福田 一彦・小林 重雄（1973）．自己評価式抑うつ性尺度の研究　精神神経学雑誌，*75*，542−551.

Gilbert, P.（2001）. Evolution and social anxiety: The role of attraction, social competition, and social hierarchies. *Psychiatric Clinics of North America*, *24*, 723−751.

Horley, K., Williams, L. M., Gonsalvez, C., & Gordon, E.（2004）. Face to face: visual scanpath evidence for abnormal processing of facial expressions in social phobia. *Psychiatry Research*, *127*, 43−53.

Kampmann, I. L., Emmelkamp, P. M. G., Hartanto, D., Brinkman, W. P., Zijlstra, B. J. H., & Morina, N.（2016）. Exposure to virtual social interactions in the treatment of social anxiety disorder: A randomized controlled trial. *Behaviour Research and Therapy*, *77*, 147−156.

川上 憲人（2007）. こころの健康についての疫学調査に関する研究　平成 16 ～ 18 年度厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学事業）「心の健康についての疫学調査に関する研究」総合研究報告書（Kawakami, N.）

Kessler, R. C., Berglund, P., Demler, O., Jin, R., Merikangas, K. R., & Walters, E. E.（2005）. Lifetime prevalence and age-of-onset distributions of DSM-IV disorders in the National Comorbidity Survey Replication. *Archives of General Psychiatry*, *62*, 593−602.

Kollman, D. M., Brown, A. T. A., Liverant, G. I., & Hofmann, S. G.（2006）. A taxometric investigation of the latent structure of social anxiety disorder in outpatients with anxiety and mood disorders. *Depression and Anxiety*, *199*, 190−199.

Lipton, M. F., Weeks, J. W., & Reyes, A. D. L.（2016）. Individual differences in fears of negative versus positive evaluation: Frequencies and clinical correlates. *Personality and Individual Differences*, *98*, 193−198.

小山 司（2017）．社交不安症について 貝谷 久宣／不安・抑うつ臨床研究会（編）　社交不安症の臨床——評価と治療の最前線——　金剛出版

Rapee, R. M., & Heimberg, R. G.（1997）. A cognitive-behavioral model of anxiety in social phobia. *Behaviour Research and Therapy*, *35*, 741−756.

前田 香・関口 真有・坂野 雄二（2015）. Fear of Positive Evaluation Scale 日本語版の信頼性と妥当性の検討　不安症研究，*6*，113−120.

笹川 智子・金井 嘉宏・竹中 泰子・鈴木 伸一・嶋田 洋徳・坂野 雄二（2004）．他者からの否定的評価に対する社会的不安測定尺度（FNE）短縮版作成の試み——項目反応理論による検討——　行動療法研究，*30*，87−97.

清水 裕士（2016）．フリーの統計分析ソフト HAD：機能の紹介と統計学習・教育，研究実践における利用方法の提案　メディア・情報・コミュニケーション研究，*1*，59−73.

Teale Sapach, M. J. N., Carleton, R. N., Mulvogue, M. K., Weeks, J. W., & Heimberg, R. G.（2015）. Cognitive constructs and social anxiety disorder: Beyond fearing negative evaluation. *Cognitive Behaviour Therapy*, *44*, 63−73.

豊田 秀樹・池原 一哉（2011）．変数間の関係性を考慮してクラスター数を決定する k-means 法の改良　心理学研究，*82*，32−40.

Wallace, S. T., & Alden, L. E.（1995）. Social anxiety and standard setting following social success or failure. *Cognitive Therapy and Research*, *19*, 613−631.

Wallace, S. T., & Alden, L. E.（1997）. Social phobia and positive social events: The price of success. *Journal of Abnormal Psychology*, *106*, 416−424.

Watson, D., & Friend, R.（1969）. Measurement of social-evaluative anxiety. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, *33*, 448−457.

Weeks, J. W., Heimberg, R. G., & Rodebaugh, T. L.（2008）. The Fear of Positive Evaluation Scale: Assessing a proposed cognitive component of social anxiety. *Journal of Anxiety Disorders*, *22*, 44−55.

Weeks, J. W., & Howell, A. N.（2012）. The bivalent fear of evaluation model of social anxiety: Further integrating findings on fears of positive and negative evaluation. *Cognitive Behaviour Therapy*, *41*, 83−95.

Weeks, J. W., Rodebaugh, T. L., Heimberg, R. G., Norton, P. J., & Jakatdar, T. A.（2009）. "To avoid evaluation, withdraw": Fears of evaluation and depressive cognitions lead to social anxiety and submissive withdrawal. *Cognitive Therapy and Research*, *33*, 375−389,